

記録
フィルム
カラー／37分
日・英語版

- 企画
文化庁
- 協力
益子参考館
日本民藝館
栃木県立美術館

スタッフ

- 製作
村山正実
- 脚本・演出
村山正実
- 撮影
西山東男
- 撮影助手
木村光男
今野聖輝
- 照明
藤来義門
- 効果
帆刈幸雄
- 録音
堀内戦治
- タイトル
佐藤 豪
- 編集
吉田栄子
- ネガ編集
加納宗子
- 選曲
山崎 宏
- 現像
IMAGICA
- 語り
樹木希林

文部省特選 1999年教育映像祭最優秀作品賞・文部大臣賞
第43回日本紹介映画コンクール優秀作品賞
1999年キネマ旬報文化映画ベスト・テン第7位
第34回 US International Film and Video Festival 銀幕賞

1996年（平成8年）、島岡達三（しまおかたつぞう）は濱田庄司に次いで、陶芸部門2人目の重要無形文化財保持者（人間国宝）の認定を受ける。映画は、その技を『地軸縄文象嵌（じぐすりじょうもんぞうがん）壺』の制作工程でみていく。



1919年（大正8年）、3代続いた組紐師の長男として、島岡達三は東京に生まれる。東京工業大学窯業学科に入学、陶磁器を専攻。初夏（学生時代に）、益子に濱田庄司を訪れ、卒業後の入門を許される。復員後の1946年（昭和21年）、濱田庄司門下となり、両親を伴って益子に移る。

1950年（昭和25年）、濱田の斡旋により栃木県窯業指導所に就職、この年、古代土器標本複製の仕事に協力し、縄文の技法を習得。その3年後、築窯、作家活動に入る。

1964年（昭和39年）、日本民藝館新作展で日本民藝館賞を受賞、国内のみならずカナダ、アメリカ、イギリス、ドイツなどで個展を開催。健やかな陶器作り（民陶）の精神を受け継ぐとともに、さまざまな組紐を器面に転がして押痕を作り、そこに化粧土を埋める独自の縄文象嵌技法を確立した。